

## 海外留学を考えている若い先生へのメッセージ

University of Michigan, Division of Gastroenterology and Hepatology,  
Department of Internal Medicine, Ann Arbor, Michigan, USA

武田 昂樹（平成 22 年卒）

私は 2019 年 9 月から、米国ミシガン州アナーバー市にある University of Michigan に研究留学させていただいております。ミシガン州は、アメリカ合衆国中西部に位置し、五大湖に囲まれたカナダとの国境に近い場所にあります。アナーバー市は、人口の 3 割が学生という学生町で、野生のリスや鹿が路上に出てくる自然豊かな町でもあります。市内は、無料バスが張り巡らされており、通学・通勤に便利で治安も良く住みやすい環境が整っているのも魅力の一つです。市内の中心地には通称“ビッグハウス”と呼ばれる米国最大の 11 万 5 千人収容可能な屋外スタジアムがあり、学生のアメリカンフットボールの試合には郊外からも多数の観客が集まるというスポーツで賑わう一面もあります。

私が所属する John M Carethers 教授の研究室では、大腸癌の DNA ミスマッチ修復遺伝子・マイクロサテライト不安定性に関する研究が行われています。多くの癌種で予後が悪いとされている Elevated microsatellite alterations at selected tetranucleotide repeats(EMAST) に関する研究が主に行われており、私は tetranucleotide repeats を導入した大腸癌細胞株を樹立して、EMAST が発生する条件の検証を行う実験に取り組んでおります。

現在、週 1 回のカンファレンスで John M Carethers 教授からご指導いただき、研究室のメンバーに支えてもらいながら、充実した研究生活を過ごしております。Carethers 教授は自分のことを John と呼ぶようにと言って下さるフレンドリーな教授で、研究を臨床的な観点からも指導して下さいます。半年経過して、ようやく環境に慣れてきましたが、研究室での英語のディスカッションでは、私の考えが上手に表現できていないなど感じる日々を過ごしております。研究室のメンバーもすごく協力的で的確なアドバイスをくれるので、すごく勉強になりますし、日常会話の中でも、様々な文化や価値観の違いに触れる事ができて面白いと感じる部分も多いです。結果を求められるプレッシャーを感じる時もありますが、一つ一つの実験結果の理由と今後の対策を皆で考える体制ができているのが、すごく良い環境で研究できていると感じます。

こちらでの留学経験を日本に戻っても有意義に活かせるように、悔いのない研究生活を送りたいと考えております。最後に、この留学の機会を与えてくださいました九州大学大学院消化器・総合



John M Carethers 教授と



University of Michigan Hospital

外科 森正樹教授、大阪大学医学部消化器外科 土岐祐一郎教授・江口英利教授・山本浩文教授・水島恒和教授にこの場を借りてお礼を申し上げます。



Michigan Stadium